

●株式会社ノースが最初に着手したのがコントラクター事業。「作業の手間が軽減できれば、米以外に畑作、ハウス栽培を行うことが可能になり、経営の安定化につながります。目指すのは地域の一斉防除」。依頼件数は年々増加しているそうです。



明日を語ろう！
北の農業人
KITANO NOUGYOUTO



北海道農業に限りない愛情を注ぎ、
たゆまぬ努力を続ける人々がいます。
農業の未来を創造する「北の農業人」の
情熱や取り組みをご紹介します。



●お父様の和幸さんと。高校生の宏樹さんにハウスを与えたのは「早いうちから勉強させようと思ったから」だそうです。



視野が広がる中で 見えてきた農業の課題

稲作が盛んな道北の名寄市風連町。この地でうるち米の生産を主に農業を営んでいる農家の4代目、米澤宏樹さんが本格的に農作物を生産したのは、何と高校2年生の時だそうです。

「父親に30メートルのハウス1棟を与えられて、『好きなものを作ってみなさい』と言われたんです。通っていた農業高校に偶然にもメロンを熟知した先生がいらしたので、その先生に師事して栽培をスタートしました」。学業と部活、農作業を両立させて1年目の生産を無事成功させた米澤さんは、翌年、高校生ながらメロンのオーナー制度を実施。その後もオーナーの

●新たな視点で、農業と農村の未来を創造する

これからの農業者像を模索し、
農業以外の世界も体験。
「自らの経験を惜しみなく、
地域にフィードバックしていきたい」

「名寄市風連町」

農業生産法人 株式会社よねざわ農園
取締役社長

米澤宏樹さん



ための収穫パーティーを開き、400人もの人を集めるなど、先進的な取り組みを展開していきました。

風連町※初の男性観光大使に任命されるなど、多くの人と出会う環境に身を置く中で、米澤さんに転機が訪れたのは24歳の時。「他業種の方から、『農家は技術はあるけれど営業が下手だね』と言われたんです。本当にそうだと思います。また、当時は道北地域のブランド力は低くて、質は良いのに相応の評価をされないことも多かった」。風連の農業をより魅力あるものに、との想いを強くした米澤さんは、まず自らのキャバシティーを広げるべく、農業以外の仕事に挑戦することを決意します。

※現在は合併のため名寄市

関心を持ち、事業開始当初から関わってきました」。何事にも挑戦するバイタリティーと、物事を成功に導く手腕には目を見張るものがありますが、「本人は『おもしろそうだな』と思ったことをやっているだけ」と笑います。「大事にしているのは発想力。悩むより行動するのが私の信条です。逆風が吹くこともあります。注目されているという証ですからね」

満足と安定の両立が 農業の未来を創出する

株式会社ノースの業務ご実家である株式会社よねざわ農園での農作業と、多忙な毎日を送る米澤さん。目指しているのは「満足と安定の両立」だといいます。



●生産しているななつばし、はしのゆめ、ゆめぴりかの3品種はすべて特別栽培米。くず米を利用した米粉など加工品開発にも取り組み、経営手腕をふるう一方で、札幌での餅つきボランティアなど、消費者との心の交流も大切にしています。

「農業を続けていくには、生産の喜びなど精神的な満足と同時に、安定した収入の確保が重要になります。これは、担い手の減少という、農業の大きな課題を解決する鍵でもあると思います」。担い手の減少は農業の衰退、ひいては地域コミュニティの縮小にも結びつく問題です。「だからこそ経済効率の高い農業の仕組みづくりを模索しています。私はいろいろな人に助けられてここまで来たので、地域に恩返しをするためにも挑戦し続けたい。得た経験はどんどん周囲に伝え、還元して、農業の魅力を高める手伝いができたらと思います」。風連の青く大きな空を見つめながら故郷と農業への想いを語る米澤さん。そのまっすぐなまなざしには、地域農業への愛情と、次代を担う自負が溢れています。

農業以外の分野で事業展開 知識・見識を深め 次のステップへ

2003年、地域の若手生産者と共同で立ち上げた「株式会社ノース」は、ジャンルを問わず多種多様な事業にチャレンジしました。そこで多くの経験を積んだ米澤さんは、設立から9年目の2011年、あらためて農業に自身の軸を戻すため、株式会社ノースの事業を農業関連に特化しました。「いまは無人ヘリコプターのコントラクター事業と農業体験の受け入れが主。体験受け入れは、メロン栽培をしていた高校生の頃、縁あつて幼稚園の子どもたちをオーナーとして受け入れたのが最初。これを機にグリーン・ツーリズムにも



●農業体験は近隣地域の中学生や大学生が中心。年間5〜6グループほど受け入れているそうです。



●(株)ノースは、一時は除雪請負、駐車場管理なども行っていました。「各分野のプロと出会えたのが大きな財産。本業の農業でもさまざまな展開を考えられるようになりました」